

令和7年度 長崎市立福田中学校 学力向上プラン

学校教育目標『心豊かでたくまく、自他を尊び、地域・社会に貢献できる生徒の育成』

重点努力目標 『自助力・共助力で 強い絆を』 生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体、命を大切にする心）を育む。

育てたい生徒の姿 【**自重**…自分を大切にし **友情**…仲間を大切にして **練磨**…磨き高め合う生徒】

本校生徒の実態（学力調査結果や各教科における課題から）

1年生…全体的に落ち着いており、向上心をもって授業を受けている。話し合い活動も活発で、積極的に取り組もうとする雰囲気がある。自主学習など課題の提出も概ね良好であるが、授業で習得した知識・技能を活用できず、学力向上に結び付かないところがある。特性を持つ生徒に対しては、個に応じた配慮や支援を行っていく必要がある。

2年生…国語では知識及び技能、読むことに、数学では主に数と式、図形の領域における知識・技能の習得に課題がある。自主学習など個に応じた課題を準備し、取り組ませることによって習慣化を図っている。「やればできる」という自信を深めさせ、学習に対する意欲を高めさせていく。TTによる個別指導の一層の充実を図る。

3年生…規律ある落ち着いた授業における学習に対する粘り強い取り組みにより、大きく学力を伸ばしている。特に英語科では全領域において学びの成果を発揮し自信を深めている。国語科では知識・技能の習得、数学科では思考・判断・表現（アウトプット）力に課題が残る。主体的に説明し合える活動の場を設定し、指導の一層の充実を図る。

【学力調査結果】

※県、市との正答率比較

1年国語	+○
数学	-▼
2年国語	+○
数学	△▼
3年国語	+○
数学	+○
英語	+○

学力向上に向けての基本方針（校内研究のテーマ）

研究主題 『令和型授業の創造～生徒主体の授業の充実とクロームブック活用による基礎学力の定着～』

研究仮説 生徒の主体性や表現力を伸ばすために、クロームブックを積極的に活用し、説明し合う活動（アウトプット）を意図的・継続的に仕組むことで、基礎学力の定着を図ることができるであろう。

具体的な取組

学習規律の徹底と確立	個に応じた指導の充実	自主的な学習の習慣化	授業改善	一小一中連携の強化
・授業の約束の徹底 (2分前着席、1分前黙想、立腰) ・安心して学べる環境作り等	・指導と評価の一体化 ・TTによる個別指導の充実 ・クロームブックの活用 等	・自主学習ノートの充実 ・キュビナでの学習の習慣化 ・自主学習会の実施 等	・授業で「input」した知識・技能を主体的に活用し、表現する「output」活動の充実	・中1や小6の授業参観 ・小中の交流機会を増やす ・小中連携研修会の充実



教師の意図的な働きかけで生徒の主体性を引き出し、表現力を伸ばすことで、『できた』『わかった』の笑顔があふれる授業を実践

授業におけるアウトプット活動の充実に取り組むことより、考え方や表現の仕方などが身に付き、一人一台端末の効果的な活用によって個や集団の学力向上、底上げが図られ、学力調査での各教科の正答率が+3ポイント上昇を目指す。

(1) 学習規律の徹底と確立に向けて

方策 1	授業約束（2分前着席・1分前黙想、立腰）の徹底、安心して学べる環境づくり
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 全教科において、授業準備を素早く済ませて2分前着席に取り組ませる。また、教師も授業の終わりの時刻を守る。 日頃の学級指導において、豊かな人間性を育て支持的風土を醸成し、誰もが安心して発言ができるような学級の雰囲気づくりを行う。
検証方法	学力向上アンケート「正しい姿勢で授業を受けている」「2分前着席、授業の準備ができている」などの項目の肯定的割合100%を目指す。

(2) 個に応じた指導の充実に向けて

方策 2	指導と評価の一体化、TTの効果的な配置と活用、ICT機器の活用
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修で、新学習指導要領に即した評価についての研修を深め、次の指導に生かすための評価に取り組む。 学習に遅れがちな生徒や集中力が持続しない生徒に対しての支援を充実させるため、TTによる個別指導の充実を図る。 生徒の興味関心を高め、理解を深めるために、特に今年度はキュビナを含め電子黒板や一人一台端末を効果的に活用する。
検証方法	学力向上アンケート「わかりやすい授業をしようと工夫している」各教科評価項目の肯定的割合の目標を設定し、向上させる。

(3) 自主的な学習の習慣化に向けて

方策 3	自主学習ノートの充実を図る、キュビナでの学習の習慣化を図る、自主学習会の実施
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力に応じた課題を設定・準備し、全員に提出させることで家庭学習を習慣化させ、実のあるものにする。 定期・実力テストにおいて、家庭学習の成果としてどれほど基礎的・基本的な知識の定着があったかを検証できるような問題を出題する。 放課後や夏休みの自主学習会を実施し、学力不振生徒の基礎的な学習内容の定着や成績上位生徒のさらなる向上に取り組む。
検証方法	「家庭学習の習慣が身についている」「それぞれの個性に応じた適切な支援を行っている」などの学校評価項目の肯定的割合の向上

(4) 授業改善に向けて

方策 4	授業で「Input」したことを「Output」する話し合い活動の設定、表現活動の充実、読解力の向上
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことを使って、自分の考えや思いを表現することができるような場面設定（グループ討議やペア学習など）を行う。 定期・実力テストにおいて、与えられた条件の下で、自分の考えや説明ができるような問題を出題する。 「知りたい」「分かりたい」「できるようになりたい」という学習意欲を喚起させる「めあて」と学習を振り返るための「まとめ」の徹底。
検証方法	定期テストや学力調査の結果についての分析、学力向上アンケートの各項目肯定的割合の目標を設定し、その達成を図る。

(5) 一小一中連携の強化

方策 5	小学校と連携し、学力調査結果・分析の報告や各教科の学習の仕方の説明などを行う。『小中連携研修会』の開催
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 小中間で協議した内容をもとに、生徒の学習指導・支援の方法共有し、各教科の目標・取組を生徒と職員とで共通理解を図る。
検証方法	学力向上アンケート結果の分析 各教科の定期・実力テストや小学6年生からの経年変化での学力調査の結果の分析